



霧る  
コロナリウム  
H180×W120×D100cm  
2011年



雲間  
シンビジウム・千両  
H130×W100×D100cm  
2011年

清ら  
里山の自然の中に身を置き季節のうつろいを感じながら、作品を作り続けています。  
花と人、そして自然と人を見つめます。

「雪間」  
一面雪に覆われた新年の里山。物音一つしない静かな時間が流れている。  
自然木に、花を活けた。自然の清らかさが、心をも浄化してくれそうな感覚を体全体で感じる。  
自然に宿る尊い神の存在、偉大な力に気づく。

「霧る」  
台風の去った九月の朝、あたり一面霧に包まれる。  
霧の間から見える山々は威厳を放ち、神聖な山の存在を間のあたりにした瞬間、私はこの空間にて清さあふれる真っ白の花を生けた。  
大地と私がつながり、向かい合う山に自身が溶け込んでいく感覚すら覚えた。

自然の中で花を生ける。  
自然の中で人は包まれながら生きている。  
小さな自分、小さな人間を越えた遥かに偉大な自然の存在を体全体で感じる。  
それは、自然に対する畏敬の念。